学校評価シート（Ｒ６年度）

東海市立加木屋南小学校

住　　所　東海市加木屋町泡池２番地
電話番号　0562-34-9303
校 長 名　鯉江　美穂

アンケート数
・児童…403人（4.5.6年生）・保護者…570人
・地域住民…31人・教員…50人

児童 777 名
31学級（内 特支5）

○ **教育目標**
- 「東海市教育基本方針」の基本理念を受け、「自ら求めて　たくましく生きぬく子ども」を育てることを目指して、「知・徳・体」の調和のとれた児童を育成する。

○ **地域の特色**
- 東海市西部の臨海工業地帯の開発に伴う人口増加により、住宅開発された５５年目を迎える地区である。教育に熱心な家庭が多く、学校にも大変協力的である。また、地域コミュニティの活動は活発である。

資料等

中期目標	今年度の目標	評価方法（アンケート項目）	結果の分析	成果（○）と課題（●）	学校支援協議会 令和７年１月３１日	来年度の改善策	
知 自ら学び、最後までやり抜く児童の育成	・学習規範の確立と、国語、算数を中心に基礎基本の徹底を図る。 ・主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくりを追究する。 ・正しい情報の収集・整理の仕方を身に付けさせ、活用する力の育成に努める。	・授業の内容が分かる。（児童） ・授業は楽しい。（児童） ・先生は熱心に教えてくれる。（児童） ・分かる授業を実践している。（教員） ・楽しい授業を実践している。（教員） ・子どもは授業内容を理解している。（教員）	・「授業の内容が分かる」と答えた児童は1.7%増え、90%を超えてきた。↑ ・「授業は楽しい」と答えた児童は6.8%増え、75%となった。↑ ・「先生は熱心に教えてくれる」と答えた児童は91.6%で、昨年度に続き微増している。→ ・「分かる授業を実践している」教員は8.5%増え95.8%となった。↑ ・楽しい授業を実践している」教員は4.5%増え、91.7%となった。↑ ・「こどもは授業の内容を理解している」と答えた教員は91.6%で、4.4%増えた。↑	○児童にとって楽しい授業、分かる授業を目指して現職教育等を通して授業力向上を図ってきたが、「楽しい」面がようやく3/4までに、「分かる」面は９割に達したことは成果と言える。 ○教師の思いや情熱が児童に伝わり、熱心に教えてくれるという思いは教職員としてもうれしい。ただし、そうではないと考える児童に焦点をあてたい。 ○昨年度は、教員と児童との間に「分かる」授業に15%の相違があったが、今年度は近い値になってきた。個に寄り添い支援する力を養うことに努めてきた成果と言える。 ○●教員は、現職教育で「主体的に学習に取り組み、学びの楽しさに気付くことができる児童の育成－『めあて』と『振り返り』の充実を通して－」をテーマに授業研究に取り組んできた。過去４年間ＩＣＴ機器の効果的な活用にに力点を置いてきた。その基礎の上に今年度から「めあて」と「振り返り」を意識的に行い習慣化を図る方法について工夫を凝らしてきた。全教員でチーム加南を意識して３部会と全体会で研究を進めている。個に応じたきめ細かい指導、児童が集中できる学習規律と学習環境等、教員個々に課題が残る面もある。	○子どもたちに話をすると、自分で行動できるようになるのはふだんの教育の結果と感じる。すばらしいことだ。 ○児童へのアンケートの回答を見ると、学校が楽しいという項目をはじめ、授業が面白い・分かるという項目、先生方に対する信頼度が分かる項目がプラスに伸びているのが分かる。これは、子どもたちが楽しい学校生活が送れるように先生方が子どもたちに寄り添い、分かりやすく楽しい授業を行ってこられた成果だと思う。児童も先生方に対する信頼度が上がっている。 ○昨年度65%程度だった「教職員間の相互理解や信頼関係ができている」という項目に対する当てはまる・やや当てはまるという回答が87.5%まで伸びている。このことが、学校運営や教育活動によい影響を与えていることは、児童へのアンケート結果(上記)からも分かる。 ●学校が楽しいと回答している子どもたちがいる反面、学校に登校できない児童や授業に参加できない児童がいることにも注視する必要がある。不登校も原因が個別にあり、背景もさまざまであるため、個々に寄り添った居場所の提供をしていく必要がある。学校での学びは子どもが生きていく力を付けるために必要なものだと考えるので、登校しやすい学校、受けやすい授業、過ごしやすい教室等環境等を調整したり、児童のサポートが行ったりする人材の確保が急務であると考える。 ●個別の対応が必要な子どもたちも含め、全ての子どもたちが過ごしやすい、楽しいと思える学校にしていくために、家庭・地域もともに考え、教育現場を支える環境資源として人材が必要だと思うのでその確保についても引き続き行政に訴えていきたいと思う。	・現職教育の研究主題「主体的に取り組み、学びの楽しさに気付くことができる児童の育成」２年目となる。「めあて」と「振り返り」の習慣化を図ることができたことを生かし、さらに児童の主体性を引き出す手だてを検証していく。全校職員での研修体制を維持し、教師個々のさらなる授業力向上につなげる。 ・ＩＣＴ活用については、教師相互に情報交換を行うなど、ＯＪＴが日常化するよう努める。特に新しく導入されるものに即時対応できるよう校内の連携体制を整える。 ・児童の「学校が楽しい」をさらに進めるために職員一同「チーム加南」で児童に寄り添い、達成感や充実感をもたせられる学習や諸活動の実践を進める。 ・中高学年の一部教科に教科担任制を取り入れる。道徳科の授業の充実と、総合的な学習の時間について実態を踏まえた改善を図る。	
徳 礼儀正しく、思いやりのある児童の育成	・学校生活全般を通して道徳教育に取り組み、心豊かな児童の育成に努める。 ・加木屋南小学校子どものいじめ防止基本方針や東海市こどものいじめ防止サミットの取組をうけた活動に従って、いじめを許さない児童の育成に努める。	・あいさつをすすんですることができる（児童） ・廊下は静かに歩いている。（児童） ・社会のルールを守っている。（保護者） ・社会のルールを守っている。（地域） ・子どもたちはルールを守って学校生活を送っている。（教員） ・学校が好きである。（児童） ・よい学校だと思う。（保護者） ・よい学校だと思う。（地域） ・いじめが起こらないためには、どうしたらよいか分かっている。（児童） ・学校は、いじめの未然防止や早期発見のために、積極的に取り組んでいる。（保護者） ・いじめの未然防止や早期発見のために、積極的に取り組んでいる。（教員）	・「あいさつをすすんですることができる」と答えた児童は81.7%で、1.1%微減した。↓ ・「廊下は静かに歩いている」と答えた児童は81.3%で5.8%増加した。↑ ・子どもたちの規範意識は、昨年度増加したものの、（教員87.2%から79.2%へ一昨年度と同水準に、保護者91.5%から90.5%へ微減）という結果だった。↓ ・地域住民は、79.2%となり11.1%減少した。↓ ・「学校が好き」と答えた児童は86.2%で、2.3%増加した。↑ ・「よい学校だと思う」保護者は87.4%で3.3%減少し、地域住民は100%で3.2%増加した。↓↑ ・「いじめの未然防止方法が分かっている」と答えた児童は91.3%で0.7%微減した。↓ ・「学校はいじめの未然防止や早期発見に積極的に取り組んでいる」と答えた保護者は一昨年度と同水準の50.2%で昨年度に比べ、6.0%減少した。↓ ・「いじめの未然防止や早期発見のために、積極的に取り組んでいる」と答えた教員は95.8%で昨年度と同水準となった。（教員）→	○「あいさつ」については、昨年度同様、民生・児童委員との共同のあいさつ運動や着ぐるみ（いじめにゃい）借用等の児童会企画を継続しているため、同水準の意識化が図れている。また、児童のルールを守る意識もやや改善されていると言える。 ●規範意識について、教員、保護者、地域住民３者とも昨年度より低くなっており、教育活動全般で規範意識を高める指導を粘り強く継続する必要がある。特に、日常生活の中での「安全と安心」を守る意識、他者尊重を育む手だて等道徳的価値を高める指導の充実を図る必要がある。 ○９割以上の保護者と地域住民が「よい学校」と答え、児童の８割以上が「学校が好き」と答えている。学校に協力的な地域や保護者に支えられ、児童がのびのびと生活していることが分かる。今後も児童主体の意欲が高まる活動を継続し、期待に応えられるチーム加南でありたい。 ●いじめ未然防止の取組について、人権週間以前のアンケートであったためか「わからない」と30%強の保護者が答えている。教員の９割強の回答との大きな開きがある。実践している内容をどう知らせていくか検討を要する。 ○「いじめ防止基本方針」に則って適時の対応と継続的な支援ができるよう全教職員の共通理解のもと、教育活動を実践してきた成果が児童の数値に表れている。	○挨拶できない子もいるが、全体を通してみればたくさんの子が挨拶してくれる。 ●昨年度以降、子どもたちが放課後等、地域に出て過ごす機会が増えて来ていることは大変喜ばしいことだと思う。しかし、交通ルールを守ること、公園等公共施設を使う時のマナー等気になることもある為(例えば公園にゴミがポイ捨てされている等)、家庭と学校、地域と協力して子どもたちに働きかけていくことが必要だと考える。 ●いじめ問題については、昨年度の意見書にも記載したが、学校での取組が保護者や　地域に伝わっていないのが残念である。発信自体が難しい内容ではあるが、この項目については昨年、一昨年同様に課題が残る。情報発信の仕方を工夫したい。 ●いじめについて保護者設問２で、３分の１の方が「分からない」と答えている。わが子を預けている学校内のことなので、「分からろう」と努力することも必要である。	・児童会執行委員のアイデアを、あいさつ運動やチャレンジウィークのなどの特別活動指導部・学習指導部・生活指導部の取組に生かすことで、児童に充実感をもたせ児童による啓発活動を充実させる。 ・今年度の地域からの情報をもとに、生活指導を中心に交通安全や正しい公園の利用などの啓発活動を展開する。 ・人権週間の取組、総務委員会の加中校区「いじめ防止サミット」、毎学期の各担任によるフレンドリータイム等、いじめ防止について多岐にわたる展開をしている。年間の取組が保護者に伝わるよう学校だより掲載やｅメッセージ配信で情報発信していく。 ・教職員は児童の日常の様子をよく観察し、微細な変化も見逃さず、早期かつ丁寧な対応を継続する。また、児童と教職員の信頼関係を維持できるよう、児童との日常の会話を大切にする。	
体 健康な心と体をもち、丈夫な児童の育成	・基本的な生活習慣を身に付けさせ、心身ともに健康で安全な生活を営みながら、集団生活の中で自他ともに向上しようとする意欲を高める。	・早寝早起きなど規則正しい生活をしている。（児童） ・子どもには毎朝、朝食を食べさせている。（保護者） ・交通安全に気を付けている。（児童） ・学校は子どもたちの安全に配慮した取組をしている。（地域） ・子どものことについて適切に相談に応じている。（教員） ・先生は誰に対しても公平に意見を聞いてくれる。（児童）	・「規則正しい生活をしている」児童は69.9%で昨年度から1.5%減少した。↓ ・毎日朝食を食べさせている保護者は96.1%で高水準を保っている。→ ・「交通安全に気を付けている」児童は96.7%でこれも高水準を維持している。→ ・「学校は子どもたちの安全に配慮した取組をしている」と答えた地域住民は91.6%で14.2%増加した。↑ ・「適切に相談に応じている」教員は93.8%で4.4%増加した。↑ ・「先生は公平に意見を聞いてくれる」と答えた児童は89.0%で5.3%増加した。↑	●規則正しい生活をしている児童が７割程度で、睡眠に焦点をあてた学校保健委員の取組等工夫しているが、さらに家庭に協力を得る方法を模索する必要がある。 ○家庭の教育力のおかげで、朝食を食べてくる児童が多く、命日元気に生活できている。 ○安全に気を付けている児童は今年度も９割を超え、ＰＴＡ支部役員の皆様の見守りと支援の賜である。今後も通学団指導や生徒指導を中心に登下校の仕方や道路で遊ばない等、安全に心がけた地域での生活ができるよう指導を継続する。 ○ＫＹＴ登校やシェイクアウト訓練が４年目を迎え、各種訓練と合わせて学校の取組が地域の皆様に理解されるようになった。ただ、児童個々をみると施設利用やモラルの面で課題もあるため、地域の声を受けて適宜指導を行っていく必要がある。 ○昨年度に比べ、子どもたちの先生に対する信頼度がやや改善していることが伺える。児童に寄り添う基本姿勢を継続して、よりよい関係を築くことに今後も各教員が心がける必要がある。	○子どもたちに聞くと早寝、早起きはほとんどの子ができており、お手伝いや宿題に関してもできていると答える。子どもたちにスポーツとふれあう機会をもっと増やせるとよい、部活の無い今、地域クラブの活動をもっと盛んにできるとよいのにと思う。また、学校側とクラブが近い距離にあるとよいと感じる。 ○児童のアンケート結果を見ると「学校での様子や出来事についておうちの人とよく話をする」の項目において、「当てはまる、やや当てはまる」の回答が増えていることは喜ばしい。家庭の話題に学校での出来事がのぼることで、保護者は学校の様子を知ることもできるし、子どもの変化に気付くきっかけにもなると思う。 ●児童へのアンケート、規則正しい生活をしているという項目の「当てはまる、やや当てはまる」のポイントがわずかではあるが下がっているのが残念である。ネットやゲーム等の影響、保護者の働き方に因る影響等を注視していく必要がある。視力低下や体力低下も心配である。今後、児童に心や身体の影響についても学習させて、改善させたい。	・教職員の目の行き届いた中で児童が生活できるよう登校時間を変更する。また、放課時のけが等を軽減させるため、運動場の遊び別エリアを設ける。 ・児童の規範意識を維持するため、集い、昼の放送、学校だより、ｅメッセージ配信などを活用し、指導内容を徹底する。 ・はきものそろえ、あいさつ運動等の児童主体の活動を推進していく。 ・児童の健康維持のため、養護教諭・保健主事を中心に手洗いや換気など感染症対策としてよい習慣が身に付くよう取り組む（かぜ予防週間・生活リズム点検）。 ・大雨時等緊急時のの児童引き渡しについて、校内にルートを設け円滑な移動ができるようにする。また、ＫＹＴ登校、シェイクアウト訓練を継続し、児童の安全意識を維持できるようにする。不審者対応として門扉の閉鎖をするとともに、教職員が児童を安全に誘導できるよう訓練を行う。	
地域連携 開かれた信頼される学校づくり	・ホームページや各種通信を活用して積極的な情報発信に努め、学校と家庭・地域の双方向の情報交換を図る。 ・学校支援協議会と連携し、地域との関わりをより一層深める。 ・心身ともに健康で、子どもと向き合う教職員のために、業務改善に向けた取組を推進する。	・教育活動に満足している。（保護者） ・依頼があれば協力したい。（保護者） ・学校は地域の活動や行事によく協力している。（地域） ・便りなどを通して、積極的に学校の様子を知らせている。（教員） ・学校からのお知らせにより、学校の様子が分かる。（地域） ・学校からの通信（たより）では、学校や子どもたちの様子がよく分かる。（保護者）	・「教育活動に満足している」とした保護者は79.2%で4.9%減少した。↓ ・「依頼があれば協力したい」と答えた保護者は81.4%で昨年度と同水準である。→ ・「学校が協力的ある」と答えた地域住民は83.3%で10.3%減少し一昨年度と同水準であった。↓ ・「便りなどを通して、積極的に学校の様子を知らせている」教員は87.5%で8.2%減少した。↓ ・「学校の様子が分かる」と答えた地域住民は95.9%で高水準を維持している。→ ・「学校や子どもたちの様子がよく分かる」と答えた保護者は、81.6%で1.4%微減した。↓	●本校の教育活動に満足が得られていない５%を重く受け止めたい。「教員の働き方改革」推進の面と併せて考え、豊かな教育活動のための一層の工夫が必要である。 ○保護者の８割以上が今年度も学校への協力について賛同している地域であることを踏まえ、ボランティア等の活動を推進していきたい。 ●今年度、コミュニティ40周年記念式典等もあり、児童が市民館の学習会やコミュニティのイベントに多数参加させていただき、充実した時間を過ごさせていただいた。学校としても今後もＰＲに協力する。 ●ｅメッセージ配信による双方向の通信が可能になり１年あまりが過ぎた。ホームページや学校通信、学年通信で定期的に情報を発信してきたが、教員の数値低下はさらに個々の連絡を充実させたいという教員の自戒としての数値と考える。 ●地域住民への情報伝達が、メルマガ配信時代に比べ少なくなっていることは否めない。支援をしていただく方々を中心にに現行のｅメッセージに登録していただくことを推進する必要がある。 ○ホームページの内容は昨年度より充実しており、閲覧数も伸びている。	○●大人が「子どもたちを見守っている」という意識が持てている人がどのぐらいいるのか疑問を感じる。少なくとも自分の周りで「子供を見守っていこう」との声は聞こえてこない。啓発活動が必要なのかもしれない。子どもたちには、感謝の気持ちがもてる子であってほしい。 ○●今年度は学校支援協議会を中心に地域の方にも呼び掛けをし、学校支援ボランティアを発足した。学習支援をはじめ環境整備等、さまざまな場面で支援を行うことができた。ボランティアに参加された方からも楽しいという声をいただいた。ただ、保護者への周知が不十分であり、課題が残る。 ●保護者へのアンケートで「学校からの協力依頼があれば出来るだけ協力したい」という項目で「できるだけ協力したい」との回答が８割程度いるが、実際のボランティア参加とは異なるように感じる。協力したいという思いを受けて、内容や環境を整えることを検討したい。保護者が、我が子の通う学校だから少しでも環境を整えたいという思いで、さらに学校のお手伝いをできるようになるとよい。 ○今年度は児童・保護者・先生方が参加する地域行事が多い年だったと思う。また、地域の方には登下校の見守り、除草作業等の環境整備等これまで同様に支援をいただいた。同じ地域の学校とコミュニティが相互に協力し合いながら、子どもたちにとって安心・安全な地域づくりを続けていけたらよい。	・ＰＴＡボランティア、学校支援協議会ボランティア等、地域や保護者の協力体制が大変充実している。また、地域の方には登下校の見守りに尽力していただいている。児童と教職員自らが教育活動の充実のため努力すべきこととお手伝いを要請する場を吟味し、地域や家庭との連携を一層充実させていく。保護者がボランティアや研修機会等を吟味し、気持ちに添う活動になるよう工夫を重ねる。 ・校長、教頭が中心となり、コミュニティと連携し、学校からの情報発信に努める（学校だより、ホームページ、ｅメッセージ配信、コミュニティ運営委員会や市民館運営委員会への参加等）。 ・各学年の取組をｅメッセージ配信やホームページ掲載により、適時伝達できるようにする。	